

167.重症敗血症性ショック患者の背景や治療実態、予後を観察する登録研究

研究の概要

様々な細菌やウイルスが人体を攻撃した結果として感染症が生じますが、感染症が悪くなってしまった状態を敗血症、さらに悪くなった状態を敗血症性ショックと呼びます。敗血症は死亡される方も多い重篤な状態であり早期目標指向型治療、免疫グロブリン療法、エンドトキシン（毒素）吸着療法など種々の治療が試みられていますが、単独で死亡率を低下させることが証明された治療法は現時点では明らかとなっていません。一方で、特に状態の悪い患者さんではこれらの治療の有効性が高い可能性が示されており、より状態の悪い患者さんに協力いただく研究が必要と考えられています。そのため、重症の敗血症性ショックの患者さんを対象として種々の治療法の効果と予後との関連を解明するための研究を東北大学が中心となり、熊本医療センターでも実施することといたしました。

研究の目的

日本における敗血症性ショック患者に対する様々な治療実態を明らかにし、同時に患者背景や予後を評価することで、敗血症性ショック患者の有効な治療を探索することです。

研究の方法

診療内で測定するデータ、検査値を登録し、集積します。治療の実際とその成績を検討し、敗血症性ショック患者に有効な治療方法を見出し、検査や治療の実態を調査します。

調査する内容

この研究のための試料採取はいたしません。

情報として病歴、年齢、性別、治療に際して取得した血圧や脈拍の変化、採血検査の値などを使用します。

調査期間

研究対象期間：倫理委員会承認後～2022年12月

（登録症例例数が不足する場合には、2023年12月まで延長の可能性があります）

研究実施期間：倫理委員会承認後～2025年3月

研究成果の発表

研究代表者は、研究終了後、遅滞なく研究成果を医学雑誌などに公表します。

研究代表者

東北大学病院高度救命救急センター助教 佐藤哲哉

副研究責任者

兵庫医科大学臨床疫学 教授 森本剛

当院における研究責任者

救命救急センター長 櫻井聖大

問い合わせ先

櫻井聖大

熊本市中央区二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター

096・353-6501